

# 平

成24年の初頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、市政運営に対し温かなご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、千年に二度と言われる大震災が東日本を襲い、多くのかげがえのない人命が失われ、生活基盤や経済活動に甚大な被害を与えました。また、原子力発電所の事故による放射能汚染や電力不足、台風によるゲリラ豪雨などの災害がたび重なり、平穏な日常生活が脅かされた、まさに国難の年でありました。

未曾有の大災害の中で、日本が一つになって被災地を懸命に支援する姿は、世界から称賛され、かつての日本の発展を支えた“人と人とのつながり”、“絆”の大切さを再び認識させられた年でもありました。

私は、今回の大震災の教訓や“つながり”、“絆”の大切さは、今後の市政においても、様々な場面において活かしていかなければならないと考えております。

さて、昨年の市政を振り返りますと、被災地を気遣いながらオープンした道の駅「しもつけ」は、おかげさまで多くの方々にご利用をいただき、利用者数、売り上げ共に予想を上回る活況にあります。

また、小・中学校校舎の耐震化を平成23年度末までに完了させるなど、安心・安全な市民生活の基盤づくりに取り組んだほか、住民票の写しや印鑑証明書のコンビニ交付、デマンドバス「おでかけ号」の運行開始など、市民生活に密着する事業にも着手してまいりました。

さらに、大きな被害を受けた宮城県亘理町に対して「応援団」を結成し、被災地支援にも取り組んだところであります。

本年の市政につきましては、現在、策定を進めている「下野市総合計画・後期基本計画」が平成24年度からスタートすることから、様々な市民ニーズや現下の厳しい社会経

済状況を踏まえた上で、将来の下野市づくりに向けて明るい展望が開けるような施策・事業を着実に推進し、下野市らしさを目指してまいりたいと考えております。

まず、基礎自治体である市は、市民の皆様との協働により創意工夫を凝らし、自らの考えと責任において地域運営を担っていくことが求められていることから、市民活動を支援する制度の導入や、自治における市民の権利や責務等を明らかにする自治基本条例の制定に向けて取り組んでまいります。

また、低年齢児の受け入れ拡大と保育サービスの拡充を目指し、民間保育園新設のための整備補助や、不妊治療の充実を図るための「人工授精治療費助成」などにも力を入れてまいります。

さらに、好評をいただいている道の駅「しもつけ」については、下野市のシティセールスや交流促進のための観光拠点として活用していくとともに、「市民の拠り所」となる新庁舎の建設事業につきましては、市民アンケート調査の結果や市民ワークショップのご意見等を可能な限り基本設計に反映し、「市民が親しみやすく機能的な新庁舎」を平成27年度末までに完成させたいと考えております。

今後とも、変動する社会経済情勢に適切に対応し、財政規律を重んじた市政運営と行政改革に鋭意取り組みとともに、市民の皆様が安心して暮らしていけるよう、下野市の将来像である“思いやりと交流で創る新生文化都市”の実現に向けて、精一杯の努力をしてまいります。

結びに、本年が市民の皆様にとりまして、幸多き良い年になりますよう心よりご祈念を申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



下野市長

広瀬 寿雄